

30.5.31

佐倉市

教育センターだより Vol.45

平成30年5月31日発行／佐倉市教育センター／TEL. 043(486)2400 <http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/13-6-0-0-6.html>

一人一人に寄り添つて

佐倉市教育センター所長 佐藤 和浩

野村総合研究所とアメリカの研究者の共同研究によりますと、2030年には日本の労働人口の約49%が、人工知能（A I）やロボットで代替可能になると推計されました。また、『A Iやロボット等による代替の可能性が高い100種の職業』も、具体的に示されました。

教員の仕事がA Iやロボットにできるわけはないと思いながらも、A Iがプロ棋士との勝負に勝ったり、自動運転技術等の急速な進歩を目の当たりにしたりすると、その100種の中に「教員」も入っているのではないかと思ってしまいます。

また、数年前にはアメリカの研究者が、「2011年にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は、大学を卒業するときに、今は存在しない職業に就くだろう。」とも言いました。

これまで以上に急激に変化していく社会の中で、2020年度に小学校、2021年度に中学校で、新学習指導要領が全面実施となります。

道徳の教科化、主体的・対話的で深い学び、小学校での外国語科や外国語活動等、子どもたちの『生きる力』を育て、高めるための授業改善や教育課程の編成を、各学校で進めていることと思います。

新年度が始まって1か月が過ぎました。特別支援教育や不登校等の相談で、毎日教育センターの電話が鳴っています。特別な支援を必要とする子どもたちや学校に登校することのできない子どもたちの思いに加え、保護者のニーズも多様化しているため、一つ一つ時間をかけて対応していくことが多くなってきています。今後も、各学校はもちろん、適応指導教室や関係機関との連携・協力を一層推進しながら、「迅速・誠実」を合言葉に、わかりやすい説明や丁寧な対応を心がけていきたいと思っています。

平成30年度、教育センターでは、これまでの、「学力向上」「特別支援教育」「教育相談」「道徳教育」「学校図書館活性化」「教育センター普及振興」の6つの事業に、「インクルーシブ教育システム」を加え、7つの事業を推進してまいります。

また、今年度より、井野小学校に難聴特別支援学級が開設されました。「聞こえ」の課題についても、一人一人の状況を把握し、ニーズに合った対応をしていきたいと考えています。

さて、前述の『A Iやロボット等による代替の可能性が高い100種の職業』についてですが、やはり、その中に「教員」は入っていませんでした。

一人一人の子どもの表情や作業の進み具合、友だちとの関わりの様子等を細かく見ながら行う学習指導や特別支援教育は、A Iといえども、先生の力にはかなわないようです。

また、多面的な見方や背景などを見つめた丁寧な生徒指導、寄り添い思いやる教育相談等についても、先生にしかできないということです。

センター職員一同、今年度も力を合わせながら、一人一人の子どもに寄り添い、保護者の思いに耳を傾け、学校と協力しながら、丁寧に事業を推進してまいりますので、ご協力よろしくお願ひいたします。



平成 29 年度佐倉市学習状況調査 ~生きて働く知識・技能の習得を~

平成 29 年度佐倉市学習状況調査について、【調査 1】国語、算数・数学、理科、英語の学習に関する調査、【調査 2】学習意識等に関する調査についてまとめました。ここでは調査結果の一部のみ掲載していますので、詳細は報告書をご覧ください。

【調査 1】国語、算数・数学、理科、英語に関する調査

各教科の基礎基本となる問題の中から正答率が高かった問題と低かった問題についてピックアップして考察し、手立てをまとめました。

生きて働く知識・技能は、日常生活や社会、自然現象等と関連付けて身に付けるだけでなく、思考・判断・表現をする中で**活用しながら習得していく**ことも必要です。さらに、児童生徒が「**何を理解しているか**」「**何ができるか**」をしっかりと認識することも、知識・技能を働かせていくうえで大切です。

国語 A

- ◎日常目や耳にする漢字を読むことやことばを選ぶこと
- ◎学習でよく使う漢字を読んだり書いたりすること
- ◎文脈から捉えやすい漢字を読むこと

※問題種別		
学年	正答率が高い問題	正答率が低い問題
小1	雨 ※読み 98.9%	二十日 ※読み 73.1%
小2	角 ※読み 98.1%	チューリップ ※カタカナ 66.2%
小3	湯 ※読み 98.8%	しんせつ ※書き 71.8%
小4	「のに」※接続詞を選ぶ 99.3%	みじかい ※書き 66.9%
小5	移動 ※読み 99.3%	きせつ ※書き 79.0%
小6	深呼吸 ※読み 99.3%	「生産される」※受身の助動詞を選ぶ 66.3%
中1	慌てて ※読み 99.2%	「それは」※文の成分 34.3%
中2	憧れ ※読み 98.2%	「あの」※品詞名 50.9%
中3	あらう ※書き 96.8%	「られ」※品詞名 52.1%

- △特別な読み方の漢字を読むこと
- △長音や促音が含まれるカタカナを書くこと
- △送り仮名が不確かな漢字を書くこと
- △文の成分や品詞を選ぶこと

算数・数学 A

- ◎基礎基本となる計算をすること（繰り上がり・繰り下がりがない、式が単純な計算等）
- ◎公式を用いて面積や体積を求めること

学年	正答率が高い問題	正答率が低い問題
小1	2+8 99.2%	17-5-2 85.3%
小2	23+76 97.5%	281-43 83.7%
小3	243+625 98.5%	80×10 76.8%
小4	6×9 で求める長方形の面積 97.1%	18-9÷3×2 63.1%
小5	6×4×5 で求める直方体の体積 94.4%	2·2/3+1/2 60.8%
小6	3/7×11/4 96.9%	4×3÷2×5 で求める三角柱の体積 83.4%
中1	(-21) ÷7 96.6%	(8x+5)-(4x+3) 45.3%
中2	-8a×5b 96.4%	(2, 1)(3, 3)を通る直線 57.0%
中3	√2×√5 95.7%	x²=81 を解く 63.5%

- △要素が増えた計算（繰り上がり・繰り下がりがある、計算が3つ以上に増える、帯分数になる等）
- △関数の式を求めること

理 科

- ◎観察・実験をとおして経験し、実感できるもの
- ◎日常生活との関連が捉えやすいもの
- ◎基礎的な実験技能

学年	正答率が高い問題	正答率が低い問題
小3	同じ体積の木の球と鉄の球を比べる 98.4%	太陽が昇ってくる方角 81.4%
小4	晴れ日のグラフを選ぶ 99.1%	光電池 71.9%
小5	気象情報をもとに天気を選ぶ 97.7%	顕微鏡でのスライドガラスの動かし方 55.8%
小6	蒸散の違いを選ぶ 98.1%	排出に関わる臓器（腎臓） 58.1%
中1	メスリンダーの目盛りを読む 97.9%	融点 34.3%
中2	炭酸水素ナトリウムを熱分解した時にできる気体 92.4%	震央 31.2%
中3	食物連鎖 97.2%	前面の様子 40.3%

- △知識と事物・現象が関連付けて理解されていないもの
- △視覚的に捉えづらく、実感しにくいもの
- △現象について式で表すこと

英 語

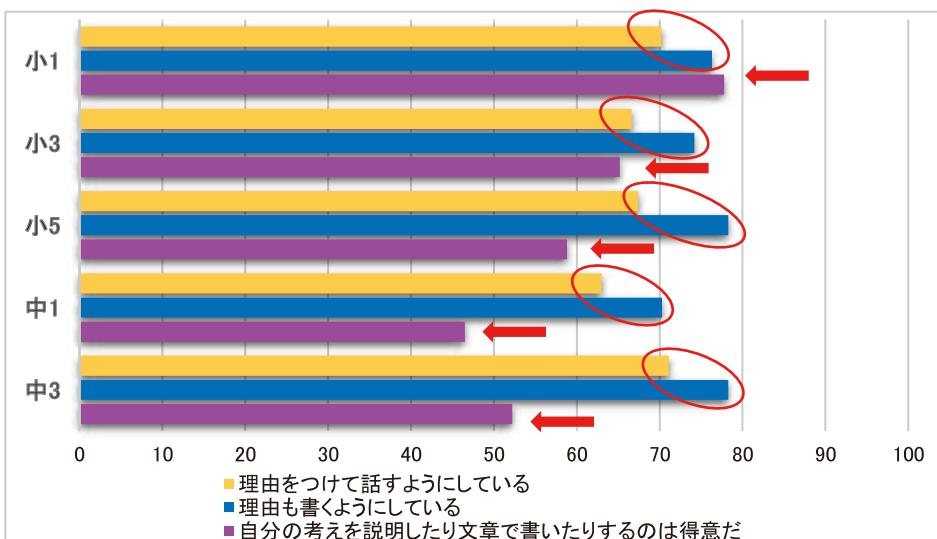
- ◎耳に慣れ、日本語に同様の表現があるもの

学年	正答率が高い問題	正答率が低い問題
中1	I play the piano～（語順） 98.4%	He isn't a～（適語選択） 32.3%
中2	We are going to see～（語順） 94.2%	When I was studying～（適語補充） 57.9%
中3	Look at the boy running in the park.（場面に適した表現を選ぶ） 97.2%	He was playing～（自己表現） 46.7%

- △日本語にはなく、なじみのない表現
- △自己表現（英作文）すること

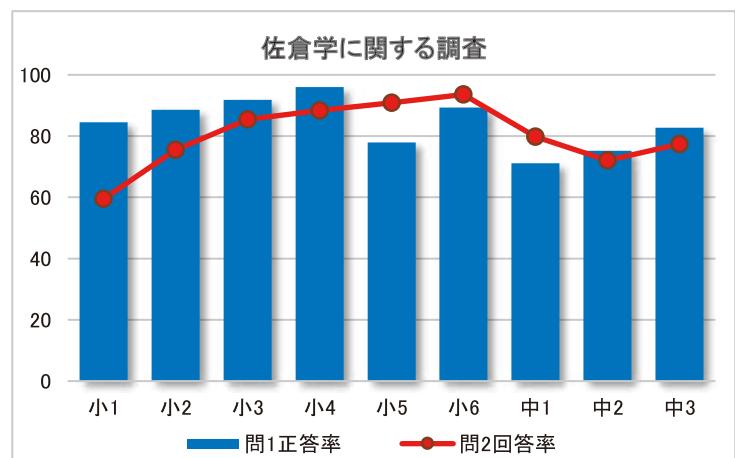
【調査2】児童生徒意識調査

児童生徒の「自分の考えを発表するとき理由をつけて話すようにしている」「自分の考えを書くとき理由もつけて書くようにしている」「自分の考えを説明したり文章で書いたりするのは得意だ」という質問に対する肯定的答の割合を比較しました。「理由も書くようにしている」と肯定的に回答した児童生徒は、「理由をつけて話すようにしている」に比べ、どの学年もその割合が高い傾向が見られました。



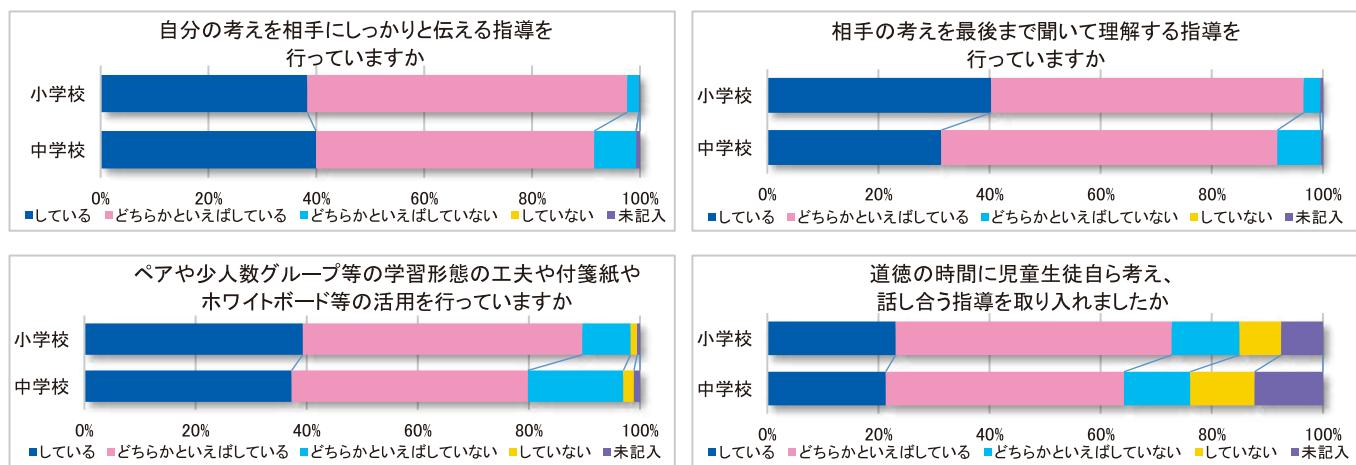
一方で、「自分の考え方を説明したり文章で書いたりするのは得意だ」とする児童生徒は、中3で多少増加するものの、学年が上がるにつれて減少する傾向が見られました。友達や教師との対話を通して、根拠を明確にして話したり聴いたりするように意識させることが大切です。また、自分の考え方を説明したり書いたりすることへの抵抗感をなくすような指導を行っていくことが必要です。

右のグラフは、平成29年度より実施した佐倉学に関する調査結果です。問1について全10問の正答率を棒グラフで示し、問2については「佐倉学についてもっと知りたいこと」（小1～小4）や「佐倉学を学習してきて役に立つこと」（小5～中3）等に関する記述の有無について、折れ線グラフに表しました。佐倉学に関する他の調査と併せて分析すると、佐倉の歴史や自然に対する興味が増してきている一方で、「佐倉学が好き」と感じている児童生徒は減少傾向が見られました。歴史や自然、文化、人物等、多様な教育資源を発達段階に応じて工夫して取り入れ、「佐倉学が好き」「ふるさと佐倉が好き」という児童生徒を育んでいくことが大切だと考えます。



【調査2】教諭・講師等意識調査

教諭・講師等意識調査では、「対話的な学び」の指導に関する調査結果について取り上げました。小学校・中学校ともに、90%以上が「自分の考え方を相手にしっかりと伝える」「相手の考え方を最後まで聞いて理解する」といった対話を意識した指導を行っていることが分かります。また、ペアやグループ等の学習形態の工夫や付箋紙等の活用は、小学校の肯定的答の割合が少し多いという結果でした。学習目標や学習内容によって、ペアやグループでの対話的な学びや、付箋紙やホワイトボード等のツールを活用した対話的な学びを積極的に取り入れ、主体的で深い学びにつなげていくことが大切だと考えます。



特別支援教育へのサポート～各機関との充実した連携を図ります～

発達相談

担当の学校教育相談員：山辺浩子・谷上千秋・有川令子
学校支援コーディネーター：野老優子・岩崎由理子

学校（園）生活や家庭生活でうまくいかないことが多い、勉強についていけなくなっている、発音や聞こえに心配があるなど、困難さが見られる幼児・児童・生徒、その保護者を対象に相談事業を行っています。

必要に応じて保護者の承諾のもと、諸検査等を実施して、より詳しく実態把握を行い、結果に基づく適切な支援について担任の先生とも連携を図り、楽しい学校生活につなげていきます。

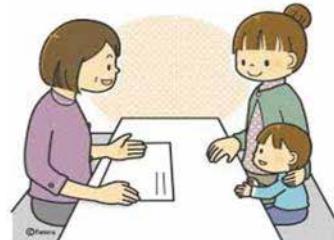
就学相談

担当の指導主事：稻葉光政・深澤朱美

保護者や学校からの就学に関する相談に応じます。学校・関係諸機関等と連携しながら、その子どもにとって一番望ましい就学の方法や、適切な教育支援の内容を一緒に考えていきます。

各相談の実施日時・場所・連絡先

- 相談日 月曜日～金曜日（祝日、年末年始を除く）
午前10時30分～午後5時00分
- 場 所 佐倉市将門町7（佐倉市立佐倉東小学校内）
- 電 話 486-2400



佐倉市の教育相談事業～将来を見つめネットワークを広げよう～

適応指導教室

何らかの理由で学校生活に不適応な状態になっている児童生徒に対して、学習や小集団生活の場を提供しています。教室には、学校教育相談員7名を配置しています。

相談員や子どもたち同士の交流を通して、自己肯定感を高めるとともに、一人一人が安心して生活し、少しづつ学校復帰や希望する進路へ向かうことができるよう支援していきます。また、保護者・学校・適応指導教室が一体となった不登校相談のネットワークづくりを進めています。

○開設日：月曜日～金曜日（祝日、年末年始は除く）午前10時～午後3時

志津教室

佐倉市西志津4-1-2
(西志津ふれあいセンター2階)
電話 489-1002

小集団による活動を行っています。
コミュニケーション能力の育成や
学習支援を行っています。
※志津教室は複合施設内にあるため、第2・4月曜日
がお休みとなります。



佐倉教室

佐倉市栄町8番地7
(佐倉市ヤングプラザ2階)
電話 484-6611

個別対応を中心に学習支援を行っています。
小集団の活動も行っています。



教育電話相談室

「教育電話相談室」では、市民、保護者、児童生徒など様々な方からの相談を受け付けています。経験豊富な相談員が丁寧に対応し、アドバイスをします。より専門的なアドバイスを受けられる相談窓口の紹介もしています。

心の教育相談員

小学校8校に心の教育相談員を配置し、児童・保護者の悩みや不安に関する相談を受け付けています。友達関係や学校に関すること、生活の中での悩みも遠慮なく相談できるような関係作りを心がけています。また、子供の様子を捉え、さりげなく声をかける等の支援も行っています。